様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　５ 月 ２３ 日現在

機関番号：４１６０５
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2022
課題番号：１７Ｋ０２２４２

研究課題名（和文）「日本宗教史」研究の新たな展開を目指す中世入宋禅僧の精神的世界に関する学際的研究

研究課題名（英文）Interdisciplinary research on the spiritual world of medieval Japanese Zen monks aiming to explore new developments in the study of the history of Japanese religion

研究代表者
何　燕生（HE, Yansheng）

郡山女子大学短期大学部・専攻科・教授

研究者番号：００２９２１８６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,400,000円

研究成果の概要（和文）：この研究計画は、栄西や道元、円爾などの中世入宋禅僧の精神世界について、 文献学および宗教学の視点から再検討し、「日本宗教史」研究の新たな展開を図ることを目的とした。コロナ感染症のため、途中から研究計画を一部変更せざるを得ないため、後半から主として日本国内における文献資料の調査をし、また、それらに対する分析を踏まえつつ、歴史的、思想史的コンテキストに即し て総合的な理解を試みた。 その成果を国内外の学会で発表した。宗教学や仏教学および日本思想史などの諸分野の関連研究との連携を模索しながら、 可能な限り学際的に検討することを目指した。研究期間全体を通して考えれば、初期の目的が達成されたと考える。

研究成果の学術的意義や社会的意義
入宋禅僧の精神世界にはきわめて多様な要素が含まれ、仏教的世界観や人生観の他に、中国の道教的な救済観や日本在来の神観念も多分に混じり合っており、決して単純なものではなかった。しかしながら、これまでの研究では基本的にそれぞれの思想や教義の側面に着目され、日本仏教史という枠組みからの考察が中心であり、しかも、研究の手法も文献の蒐集とその解釈という極めて限定されたものだった。
実地調査およびそれを踏まえた歴史的分析の中から入宋僧の精神世界の全体像を探ろうとするような研究はこれまで本格的になされてこなかったように思われる。
研究成果を英語や中国語で刊行したため、国際学術交流に寄与するところが大きいと考える。

研究成果の概要（英文）：This research project aimed to reexamine the spiritual world of medieval Song dynasty Zen monks such as Eisai, Dogen, and Enni from the perspectives of literary studies and religious studies, with the goal of advancing new developments in the field of "Japanese religious history" research. Due to the COVID-19 pandemic, it became necessary to make some changes to the research plan. As a result, investigations of literary materials within Japan were conducted, and based on the analysis of these materials, a comprehensive understanding was attempted within the historical and intellectual contexts. The findings were presented at domestic and international academic conferences. Furthermore, the project aimed to seek collaboration with related studies in fields such as religious studies, Buddhist studies, and the history of Japanese thought, striving for interdisciplinary examination as much as possible.

研究分野：宗教学、日本仏教研究、東アジア禅仏教、道元

キーワード：入宋禅僧　東アジア禅仏教　日本宗教史　道元　栄西

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

入宋禅僧の精神世界にはきわめて多様な要素が含まれ、仏教的世界観や人生観の他に、中国の道教的な救済観や日本在来の神観念も多分に混じり合っており、決して単純なものではなかった。しかしながら、これまでの研究では基本的にそれぞれの思想や教義の側面に着目され、日本仏教史という枠組みからの考察が中心であり、しかも、研究の手法も文献の蒐集とその解釈という極めて限定されたものだった。実地調査およびそれを踏まえた歴史的分析の中から入宋僧の精神世界の全体像を探るとともに、「日本宗教史」研究の新たな展開を目指すような研究はこれまで本格的になされてこなかった。

２．研究の目的

この研究計画は、栄西や道元、円爾などの中世入宋禅僧の精神世界について、寺院の遺跡調査に基づきながら、文献学および宗教学の視点から再検討し、「日本宗教史」研究の新たな展開を図ることを目的とする。第一に中世入宋禅僧たちが当時訪れたとされている現在中国の杭州や寧波、 天台山、普陀山等の地域の寺院におけるそれぞれの足跡を実際に調査し、経済成長と宗教復興が 進む近年において、それらの遺跡が一体どのような現状にあるかを確認すること、第二にそれらに対する分析を踏まえつつ、歴史的、思想史的コンテキストに即して総合的な理解を試みるというものである。如上の研究の目的達成のために、仏教学や宗教学などの諸分野の関連研究との連 携を模索し、海外の協力者の協力を得ながら可能な限り学際的に検討することを目指す。

３．研究の方法

本研究の目的を達成するために、具体的には、遺跡調査および文献調査を実施することを計画した。

遺跡調査については、入宋僧らとゆかりの深い浙江省、江蘇省およびその周辺地域における諸寺院や施設を訪ね、現地の研究協力者の協力を得ながら、それぞれの現状を調査すると共に、それらの調査によって得られた文字データや写真および映像資料について分析を行う予定である。

また、文献調査については、入宋禅僧に関する諸文献が所蔵されている北京国家図書館や上海図書館、浙江省図書館、寧波市図書館および各地の寺院を訪問し、研究協力者の協力を得ながら網羅的に蒐集し文献目録の作成に取り組む予定である。

しかしながら、コロナ禍のため、一部の計画を変更せざるを得ないため、研究の方法についても、変更し、後半では主にオンラインで国内外の学会やシンポジウムに参加し、研究成果の発表を中心に行った。

４．研究成果

<u>初年度の成果について</u>

①文献調査および寺院調査。まずは5月上旬に北京にある宗教文化出版社を訪問し、『正法眼蔵』中国語訳の改訂版の出版について打ち合わせをした。5 月 30 日に『正法眼蔵』の修訂版が北京の宗教文化出版社から刊行された。引き続き、上海へ出かけ、関連寺院などにおける調査活動を行った。とくに『正法眼蔵』中国語訳を読みながら只管打坐を行っている

坐禅の愛好者にインタビューを行ったことが特筆されるべきである。会社員が中心となるこの会は完全にフリーの愛好会であり、中国本土では 200 人程度いるという。今回は主に上海に住んでいるメンバーを中心にインタビューを行った。このインタビューの成果はそのうち研究会などで発表する予定である。その後、浙江省嘉興市へ出かけ、精厳講寺にてフィールドワークを行った。同寺の住職にインタビューも行った。とても充実した調査旅行だった。8 月には寧波で開催された太虚関係のシンポジウムに出席し、研究成果を発表した。その発表を纏めた論文が『世界宗教研究』(2018 年第 1 期）に掲載された。

②国内における文献調査および研究成果の発表。文献調査については、主に京都および東京にて行った。研究成果の発表については、9 月に東京大学で開催された、本人が所属している日本宗教学会で研究成果を発表した。また、11 月に東洋大学で「現代中国における道元の発見」というテーマで発表した。

２年度目の研究成果について

前半は私が企画した二つのシンポジウムに参加し、研究成果の発表を行った。一つは 5 月 3 日～4 日に武漢大学哲学院で開催された「Chan　Zen　Ｓｅｏｎ：禅の形成と世界における展開」であり、アメリカ、韓国、日本および中国、香港、台湾から 40 名の研究者が参加し、研究発表を行った。もう一つは 7 月 21 日～22 日に東洋大学で開催された「世界における道元研究最前線」である。いずれも前年度に計画していたものである。

8 月には福州の黄檗山を訪問し、初期禅宗についての実地調査を行った。また、9 月には日本宗教学会学術大会（京都大谷大学）でパネルを企画し、台湾と中国からも研究者を呼んで合同で発表した。さらに浙江工商大学で開催された「東亜文献中的仏教」国際シンポジウムで「12-13 世紀東亜禅与儒教：道元における三教一致説批判の背景」、北京大学で開催された「宗門教下国際シンポジウム」で「大乗仏教概念の形成にみる日本の立場」と題する研究成果を発表した。

後半は武漢大学で開催された「中国哲学史範式転移」国際シンポジウムで「胡適歴史視域中的臨済義玄禅学」と題する研究を発表した。また 2018 年はちょうど明治維新 150 周年にあたる節目の年であるため、中国の Web メディアが企画した「明治維新１５０周年」特集に論文を三本寄せた。

後半は研究発表と共に、さらに京都や名古屋、東京、岩手などの図書館や寺院において文献調査を行った。近代日本における中国仏教の情報を調べることが目的であった。

3 年度目の研究成果について

研究成果の発表としては、具体的に以下のものがある。①5 月 16 日～20 日武漢大学文明対話高等研究院が主催する「世界歴史と世界哲学ー比較哲学の時代と方向」のシンポジウムに参加し、研究発表を行った。初日は「グローバルヒストリーと世界哲学」と題する座談会にゲストとして参加し、日本の中学校、高校および大学における「世界史」「西洋史」「東洋史」を取り上げて話題にしながら、比較宗教学の観点から地域史をどうとらえるべきかについて、東アジアの仏教交流、特に禅僧たちの交流を事例として研究発表を行った。翌日はシンポジウムであり、「大乗仏教をめぐるヤスパースの理解とその特徴」という内容の研究発表を行った。このシンポジウムに日本から研究代表者のほかに東京大学の石井剛教授も参加し研究発表を行った。また②5 月 25 日～26 日東洋大学で開催された「初期禅宗史研究の最前線」国際シンポジウムに参加し、司会などをつとめ、海外の研究者たちと交流を行った。さらに③9 月 13 日～15 日、日本宗教学会学術大会に参加し、「近年中国における仏教研究の最新動向」と題する研究発表を行った。

文献調査については、①４月１９日～21 日に滋賀県の琵琶湖湖畔にある臨済宗関係の寺院にて入宋禅僧に関連する資料を調査した。祥瑞寺に伝えられる「梅」の掛け軸は室町初期のものだが、特徴的なのは「梅」を「讃」えるという形式ではなく、「梅」を「拝む」形となっているという。入宋して「梅」を手に持った「天神さま」に変身した菅原道真の事例と関連させて考えると、興味深い。また②6 月 21 日～23 日、8 月 23 日～27 日、愛知県豊橋市にある浄円寺にて二度にわたり文献調査を行った。同寺に保存されている民国時代の仏教雑誌および新聞を実際に撮影することができた。その他、京都や札幌の禅寺で文献調査を行った。

4 年度目の研究成果について

コロナ禍のため、2020 年度における国内外の出張などは全く実施できなかった。それどころか、前年度 3 月までに実施予定の出張も途中からすべてキャンセルせざるを得なかった。そのため、国内外における文献調査や学会、シンポジウムでの成果発表はすべて実施できなかった。

しかしながら、それにもかかわらず、オンラインによる国際シンポジウムに一件参加した。「蕭萐父先生と当代中国哲学」学術研討会、2020 年 8 月 14 日～15 日、武漢大学哲学院ほか主催、Tencent meeting/国際版 VooV Meeting(オンライン)にオンライン参加し、「哲学史研究における問題意識について」(哲学史研究中的問題意識)と題する研究成果を発表した。
論文としては、①「近代文明対話中東亜仏教知識的重築―以『大乗仏教』為中心―」(『哲学研究』2020 年第 5 期、38 頁--50 頁、中国社会科学院哲学研究雑誌社、社会科学文献出版社)、②「中国語圏における人間仏教―その思想と実践」(『宗教研究』第 94 巻第 2 輯第 398 号、第 81 頁-108 頁、日本宗教学会)、③「太虚世界仏教運動中的日本「朋友圏」―以太虚与稲葉円成的交往為中心」(『北大仏学』第 2 輯、第 3 頁-第 28 頁、北京大学仏教研究センター、社会科学文献出版)、④「重尋「東亜仏教大会」―以日本外務省外交档案為中心的考察―」(『北大仏学』第 2 輯、第 370 頁-第 388 頁、北京大学仏教研究センター、社会科学文献出版)、⑤「道元与宏智――中日曹洞宗交流的一個側面」(『第四届径山禅宗文化論壇』64-80 頁、杭州仏教協会、浙江工商大学東亜仏教文化研究中心)、⑥「在日本尋找中国――仙台道仁寺与常盤大定」(『尋找/SEEKING』NO.3、東方出版社、205 頁-219 頁)などを発表してきた。その意味では有意義だったと考える。

5 年目の研究成果について

昨年度に続き、今年度もコロナ禍のため、当初予定していたミニシンポジウムの実施もできなかった。国内における文献調査も実施できなかった。
国内外における学術大会、シンポジウムの開催方法がすべてオンラインによる実施に変更されたため、オンラインでの参加、発表を行った。1 つ目は武漢大学文明対話高等研究院の主催による「百年未有之大変局与伝統文明的転換和発展高峰論壇」において、「佛教在亜洲伝播的歴史経験与未来展望」と題する基調講演を行った。2 つ目は暨南大学哲学研究所の主催による「諸子学肖 Jie 父先生学術思想研討会会」において、「佛教是一个想象的共同体?」と題する報告を行った。3 つ目は科研基盤 A「海外の研究者との連携による日本・中国における禅思想の形成と受容に関する研究」(研究代表者伊吹敦)の主催による「三者鼎談 『正法眼蔵』の表現・翻訳・思想をめぐって」とのテーマで、私の『正法眼蔵』中国語訳をめぐり、コレジュ・ド・フランスのジャン=ノエル・ロベール氏、駒澤大学の角田泰隆氏と対談し、『正法眼蔵』の文体と表現の特徴について議論した。4 つ目は、中国社会科学印世界宗教研究所の主催による中国社会科学論壇(2021・宗教学)「伝承与発展:世界文明交流与互鑑」

において、これまで「東西文明対話における「大乗仏教」概念の形成ーヤスパースと木村泰賢の説を中心とした考察」と題する研究発表を行った。5 つ目は、「他者眼中的中国形象期待系列訪談式講座之三(武漢大学文明対話高等研究院)」において、「仏教文化対世界和平与人類命運共同体建設的積極意義」と題する講演を行った。6 つ目は、国際禅研究プロジェクト(科研基盤 A)の研究発表例会において、「禅と武士道」という言説の生成とその背景ー新渡戸稲造・井上哲次郎から鈴木大拙までー」と題する研究発表を行った。さらに、文献の整理とデータの入力作業を学生らに手伝ってもらった。

6 年目の研究成果について

1.研究成果の発表。主なもの: ①以前発表した「論道元と如浄的修証思想の異同」という日本語の論文を中国語化し、『天童と東アジア世界国際学術研討会論文 集』に掲載した。修証思想をめぐる道元とその師如浄との異同について論じたものである。

②Chan Studies as Chinese Studies: A Study of Chinese Chan History at Kyoto University という英語の論文を執筆し、"How Zen Became Chan: Pre-modern and Modern Representations of a Transnational East Asian Buddhist Tradition" UBC Department of Asian Studies ONLINE, in collaboration with Yale University International Conference にて発表した。

③「日僧道元与『法華経』」という中国語の論文を発表し、当該論文は『第二回国際天台学:天台と東アジア世界国際学術研討会論文集』に掲載された。道元における 『法華経』の受容について、『正法眼蔵』諸巻の引用状況を通して、その特徴と思想的背景を探った。

④「Linji 臨濟 (?-867), Ryokan 良寛 (1758-1831)and Ikkyu 一休 (1394-1481) in the Chan Narratives by Yanagida Seisan」という英語の論文を発表し、当該論文は「"Thus Have I Heard":Patterns and Logics in Buddhist Narrative Literature」に掲載された。京都大学人文科学研究所前所長柳田聖山(1922-2006)における臨済・良寛・一休の研究成果を取り上げ、その捉え方および特徴を論じた。

研究期間全体を通して実施した成果については、コロナ感染症のため、当初予定した文献調査および実地調査は思うままにできず、一部の問題の解明が今後に期待されなければならない。しかし、それを除いては、研究成果の発表や必要な文献図書の購入ができたため、ほぼ当初の目的が達成されたと考える。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計23件（うち査読付論文　18件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　2件）

１．著者名 何燕生	４．巻 7期
２．論文標題 当禅仏教遭到哲学者―田辺元『正法眼蔵の哲学私観』	５．発行年 2021年
３．雑誌名 『漢語仏学評論』、168頁--179頁、中山大学哲学系仏学研究センター、上海古籍出版社	６．最初と最後の頁 168-179
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 何燕生	４．巻 1
２．論文標題 道元与南宋臨済宗	５．発行年 2021年
３．雑誌名 『第二届国際黄檗禅論壇学術論文集』	６．最初と最後の頁 300-318
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 何燕生	４．巻 第8号
２．論文標題 現代中日における禅宗史研究の交流の一断面―印順の『中国禅宗史』の出版とその反響を中心にー	５．発行年 2021年
３．雑誌名 国際禅研究』	６．最初と最後の頁 201-227
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 HE Yansheng(何燕生)	４．巻 4
２．論文標題 .Discovering an Academic: The Influence of Master Yinshun’s Chan Research on Japanese Scholarship	５．発行年 2021年
３．雑誌名 ournal of Buddhist Philosophy	６．最初と最後の頁 139-146
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 HE Yanseg(何燕生)	４．巻 第9号
２．論文標題 Modern Narratives of Linji and the Linji lu: A Methodological Investigation	５．発行年 2021年
３．雑誌名 『国際禅研究』	６．最初と最後の頁 421-453
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 何燕生	４．巻 2020年第5期、
２．論文標題 近代文明対話中東亜仏教知識的重築―以「大乗仏教」為中心―	５．発行年 2020年
３．雑誌名 哲学研究	６．最初と最後の頁 38-50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 何燕生	４．巻 第94巻第2輯第398号
２．論文標題 .中国語圏における人間仏教―その思想と実践	５．発行年 2020年
３．雑誌名 宗教研究	６．最初と最後の頁 81頁-108頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 何燕生	４．巻 第2巻
２．論文標題 太虚世界仏教運動中的日本「朋友圏」―以太虚与稲葉円成的交往為中心	５．発行年 2020年
３．雑誌名 北大仏学	６．最初と最後の頁 3頁-28頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 何燕生	4．巻 第2巻
2．論文標題 .重訪「東亜仏教大会」―以日本外務省外交档案為中心的考察―	5．発行年 2020年
3．雑誌名 北大仏学	6．最初と最後の頁 370頁-388頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 何燕生	4．巻 1
2．論文標題 道元与宏智――中日曹洞宗交流的一個側面	5．発行年 2020年
3．雑誌名 第四届径山禅宗文化論壇	6．最初と最後の頁 64頁-80頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 何燕生	4．巻 第8巻
2．論文標題 道元対心常相滅論的批判	5．発行年 2019年
3．雑誌名 『中国禅学』	6．最初と最後の頁 336-348
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 何燕生	4．巻 第4巻
2．論文標題 現代中国語圏における道元の発見―聞き取り調査からー	5．発行年 2019年
3．雑誌名 国際禅研究	6．最初と最後の頁 159-183
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 何燕生	４．巻 第9巻
２．論文標題 百年来日本出版的第一部当代中国高僧的学術専著―『生活禅鑰』日文版翻訳	５．発行年 2019年
３．雑誌名 中国禅学	６．最初と最後の頁 829-836
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 何燕生	４．巻 169
２．論文標題 仏教是一個想像的共同体嗎	５．発行年 2018年
３．雑誌名 世界宗教研究	６．最初と最後の頁 73～ｺｵ
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 何燕生	４．巻 1
２．論文標題 在Ｃｈａｎ　Ｚｅｎ　Ｓｅｏｎ中穿行的禅宗学者ー金九経	５．発行年 2018年
３．雑誌名 ＣａｎＺｅｎ　Ｓｅｏｎ禅的形成及其在世界的展開	６．最初と最後の頁 201-228
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 何燕生	４．巻 1
２．論文標題 12-13世紀東亜禅宗与儒教：道元関於三教一致説批判	５．発行年 2018年
３．雑誌名 東亜文献与文学中的仏教	６．最初と最後の頁 631-645
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 何燕生	４．巻 1
２．論文標題 大乗仏教概念中的日本立場	５．発行年 2018年
３．雑誌名 宗門教下	６．最初と最後の頁 227-239
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 何燕生	４．巻 1
２．論文標題 胡適歴史視域中的臨済義玄禅学	５．発行年 2018年
３．雑誌名 中国哲学史的多元書写範式	６．最初と最後の頁 109-117
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 何燕生	４．巻 1
２．論文標題 誰識廬山真面目	５．発行年 2018年
３．雑誌名 北大仏学	６．最初と最後の頁 229-280
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 何燕生	４．巻 91巻
２．論文標題 現代中国における「日本仏教」の逆輸入現象について	５．発行年 2018年
３．雑誌名 宗教研究	６．最初と最後の頁 ２９７～298頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 何燕生	４．巻 1期
２．論文標題 仏教是一個「想像的共同体」？	５．発行年 2018年
３．雑誌名 世界宗教研究	６．最初と最後の頁 ７３～８６頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 何燕生	４．巻 1
２．論文標題 禅が哲学に出会った時：西田幾多郎与田辺元における禅の理解の相違	５．発行年 2017年
３．雑誌名 比較哲学的理論、方法与実践問題学術研討会論文集	６．最初と最後の頁 47～53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 何燕生	４．巻 5
２．論文標題 近代化叙事中的臨済以及臨済録：一種方法論的省察	５．発行年 2017年
３．雑誌名 漢語仏学評論	６．最初と最後の頁 252～273
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計20件（うち招待講演　10件／うち国際学会　17件）

１．発表者名 何燕生
２．発表標題 仏教在亜洲伝播的歴史経験与未来展望
３．学会等名 百年未有之大変局与伝統文明的転換和発展高峰論壇、武漢大学哲学院主催、オンライン（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 何燕生
２．発表標題 経典与体験之間―以『壇経』在当代日本的流伝為中心
３．学会等名 第7届東亜仏教文献与文学裏的仏教世界以及東南亜仏教与宗教国際学会、、韓国東国大学主催、Zoomオンライン（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 何燕生
２．発表標題 仏教是一個想像的共同体
３．学会等名 諸子学簫jie父先生学術思想研討会 、き南大学哲学研究所ほか主催、オンライン（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 何燕生
２．発表標題 三者鼎談 『正法眼蔵』の表現・翻訳・思想をめぐって
３．学会等名 国際禅研究プロジェクト、東洋大学東洋学研究所、オンライン（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 何燕生
２．発表標題 東西文明対話中「大乗仏教」概念的形成―以雅斯貝爾斯和木村泰賢的論述為中心的考察
３．学会等名 中国社会科学論壇(2021・宗教学)「伝承与発展:世界文明交流与互鑑」、中国社会科学院世界宗教研究所主催、オンライン（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 何燕生
２．発表標題 『禅と武士道』という言説の生成とその背景 ―新渡戸稲造・井上哲次郎から鈴木大拙まで
３．学会等名 国際禅研究プロジェクト、東洋大学東洋学研究所、オンライン（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 何燕生
２．発表標題 哲学史研究中的問題意識
３．学会等名 「簫jie父先生と当代中国哲学」学術研討会（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 何燕生
２．発表標題 日本外務省所蔵民国仏教史料の整理と成果
３．学会等名 北京大学哲学系宗教学系講演会（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 何燕生
２．発表標題 問題としての東亜の「思想」
３．学会等名 中国社会科学院哲学研究所主催ワークショップ（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 何燕生
２．発表標題 パネリスト「世界歴史と文明対話」
３．学会等名 武漢大学文明対話高等研究院主催国際シンポジウム（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 何燕生
２．発表標題 国家・宗教・移民―安積疏水事業に見る
３．学会等名 印度学宗教学会第60回学術大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 何燕生
２．発表標題 近年中国における仏教研究―北京大学『北大仏学』を事例に
３．学会等名 日本宗教学会第78回学術大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 何燕生
２．発表標題 在日本発見太虚
３．学会等名 太虚与近代中国国際学術研討会（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 何燕生
２．発表標題 在Ｃｈａｎ　Ｚｅｎ　Ｓｅｏｎ中穿行的禅宗学者ー金九経
３．学会等名 ＣａｎＺｅｎ　Ｓｅｏｎ禅的形成及其在世界的展開国際学術研討会（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 何燕生
２．発表標題 12-13世紀東亜禅宗与儒教
３．学会等名 第四回東亜文献与文学中的仏教思想（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 何燕生
２．発表標題 「大乗仏教」概念中的日本立場
３．学会等名 「宗門教下：第三回中国仏教史論壇」（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 何燕生
２．発表標題 胡適歴史視域中的臨済義玄禅学
３．学会等名 中国哲学史的多元書写範式学術研討会（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 何燕生
２．発表標題 現代中国における「日本仏教」の逆輸入現象について
３．学会等名 日本宗教学会
４．発表年 2017年

１．発表者名 何燕生
２．発表標題 尋夢『臨済録』：柳田聖山の中国禅宗史研究
３．学会等名 漢傳仏教的経典与解釈学術研討会（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 何燕生
２．発表標題 仏教是一個「想像的共同体」？
３．学会等名 東亜東南亜人間仏教思想及其実践国際学術研討会（国際学会）
４．発表年 2018年

〔図書〕　計6件

１．著者名 何燕生	４．発行年 2021年
２．出版社 新星出版社	５．総ページ数 376
３．書名 此岸与彼岸(担当部分:一部仏光百喩経)	

１．著者名 何燕生	４．発行年 2021年
２．出版社 銀河出版社	５．総ページ数 601
３．書名 近代東アジアと日本文化(担当部分「越境する中国仏教ー中国語圏における「人間仏教」の思想と実践」:)	

１．著者名 何燕生	４．発行年 2021年
２．出版社 北京:宗教文化	５．総ページ数 479
３．書名 禅的形成及其在世界的展開』	

１．著者名 日本思想史事典編集委員会、日本思想史学会　共同執筆担当	４．発行年 2020年
２．出版社 丸善出版	５．総ページ数 744
３．書名 日本思想史事典	

１．著者名 何燕生	４．発行年 2017年
２．出版社 禅文化研究所	５．総ページ数 923
３．書名 臨済録研究の現在	

１．著者名 何燕生	４．発行年 2017年
２．出版社 香港菩提出版社	５．総ページ数 500
３．書名 衆力荘厳、一仏円満：人間浄土与弥勒浄土（下）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関